

岡山フィル
倉敷で初の定期演奏会

岡山フィルハーモニック管弦楽団第86回定期演奏会
Okayama Philharmonic Orchestra
86th Regular Concert

Sun/Oct 19, 2025 2:00pm Kurashiki Civic Hall

2025年

10/19日

14:00開演 (13:00開場)
倉敷市民会館
(岡山県倉敷市本町17-1)

リスト／交響詩「前奏曲」
リスト／ピアノ協奏曲第1番
バルトーク／管弦楽のための協奏曲

© K.MIURA

© Lyodoh Kaneko

[指揮者]

高関 健

[ソリスト:ピアノ]

児玉麻里



岡山シンフォニーホール Presents

入場料 S席5,500円 A席4,400円
B席3,300円 B(ユース)席1,000円

※「岡山シンフォニーホール・岡フィル友の会」会員は10%割引。B(ユース)席は19歳以下に限る。(学生証をお持ちの方は25歳未満までご購入いただけます) ※未就学児の入場はお断りいたします。また、小学生以上の場合には入場券が必要です。※やむを得ない事情により、曲目、出演者が変更となる場合があります。

主 催：公益財団法人岡山文化芸術創造

共 催：公益財団法人倉敷市文化振興財団、岡山市、岡山県、RSK山陽放送、岡山県音楽文化協会

後 援：倉敷市、倉敷商工会議所、倉敷ケーブルテレビ

助 成：エネルギー文化・スポーツ財団



Okayama Philharmonic Orchestra
86th Regular Concert

© K.MIURA

Ken Takaseki

高関 健(指揮)

桐朋学園在学中にカラヤン指揮者コンクールジャパンで優勝。ベルリンに留学しヘルベルト・フォン・カラヤンのアシスタントを務めた。タングルウッド音楽祭でレナード・バーンスタイン、小澤征爾らに指導を受け、1981年にベルゲン交響楽団を指揮してヨーロッパにデビュー。1983年ニコライ・マルコ記念国際指揮者コンクール第2位。1984年ハンス・スワロフスキー国際指揮者コンクール優勝を経て、1985年1月に日本フィル定期演奏会で日本デビュー。国内オーケストラはもとより、ウィーン交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、デンマーク国立放送交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、クラングフォーラム・ウィーン、ブラハ放送交響楽団、ケルン放送交響楽団などに客演。2013年2月と2017年4月にはサントペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団定期演奏会を指揮、世界に名だたる名門オーケストラから豊富な響を引き出し聴衆や楽員から大絶賛を受けた。

オペラでも新国立劇場での團伊玖磨「夕鶴」、ザ・カレッジ・オペラハウスでのプリテン「ピーター・グライムズ」をはじめ、2019年3月はウラジオストクとサントペテルブルグで「夕鶴」、2021年4月には新国立劇場公演ストラヴィンスキー「夜鳴きうぐいす」とチャイコフスキー「イオランタ」を指揮、作品の魅力存分に伝えて高い評価を得ている。広島交響楽団音楽監督・常任指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、大阪センチュリー交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督(現名誉指揮者)、札幌交響楽団正指揮者、京都市交響楽団常任首席客演指揮者などを歴任し、現在東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者(2015年4月～)、富士山静岡交響楽団首席指揮者(2021年4月～)、仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者(2023年4月～)を務める。

2009年のビエール・ブーレーズ京都賞受賞記念ワークショップではブーレーズから、イツァーク・パールマン、ミッシェル・マイスキー、ギドン・クレーメル、ミハイル・プレトニョフ等の世界的ソリストや作曲家、特にマルタ・アルゲリッチからはシCHEDRIN作品の日本初演等3回の共演を通じてその演奏を絶賛されるなど絶大な信頼を得る、緻密なスコア分析からスケールの大きな音楽を作りだす名匠。

第4回渡邊曉雄音楽基金音楽賞(1996年度)、第10回齋藤秀雄メモリアル基金賞(2011年)、第50回サントリー音楽賞(2018年度)を受賞。NHK等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍が続いている。東京藝術大学名誉教授

X (@KenTakaseki) @KenTakaseki

Mari Kodama

児玉 麻理(ピアノ)

国際的に高い評価を受けるピアニスト。ソロ、室内楽、オーケストラとの共演において、その卓越した演奏は聴衆を魅了する。自然な音楽性と明快な構成力、豊かな音色による表現力を備え、とりわけベートーヴェン解釈においては、新たな基準を確立している。

6歳で渡欧。14歳の時、最年少、最優秀でパリ国立高等音楽院に入学。ピアノをタチアナ・ニコラエワ、アルフレッド・ブレンデルなどに学ぶ。17歳でブルミエ・プリを獲得して卒業。同年、同音楽院のマスター・コースに進み、19歳で修了。この間、数多くのコンクール等で、優勝、上位入賞を果たす。

2024/25シーズンは、パリのル・セルクル・ドゥ・ラルモニエ(指揮:ジェレミー・ロール)との開幕公演で、フォルテピアノによるベートーヴェンのピアノ協奏曲第1番を演奏。また、テノール歌手ユリアン・ブレガルディエンとのデュオや、ドイツ・ブライバッハでのベートーヴェンのピアノソナタ全曲演奏シリーズなどが注目された。

これまでに共演した主なオーケストラには、ベルリン・フィル、ロンドン・フィル、イタリア国立放送、ハンブルク北ドイツ放送、リヨン国立歌劇場管、ロサンゼルス・フィル、モントリオール管、日本各地のオーケストラ、シンガポール響等がある。

録音活動も活発で、ベートーヴェンのピアノソナタ全集、ケント・ナガノ指揮によるピアノ協奏曲第0番から第5番を完成、「エロイカ変奏曲」などを収録した全集を発表。最新作には、スイス・ロマン管弦楽団との共演によるモーツァルトとブーランクの協奏曲、そしてブルックナーのピアノ作品集がある。

演奏活動に加え、音楽祭の芸術監督としても才能を発揮。夫ケント・ナガノとともにサンフランシスコのフォレストヒル・ミュージカル・デイズ・フェスティバルを共同設立し、オーフォード音楽祭の室内楽シリーズも主導した。2018年からは、イタリア・ポストイニャーノにおけるフェスティバル《トラ・ルーチェ・エ・ソニーニョ》の芸術監督を務めている。

岡山フィルハーモニック管弦楽団

1991年に開館した岡山シンフォニーホールは、国内外のアーティストから音響の素晴らしいホールとして高い評価を獲得。これを機に文化庁の補助を受け、岡山にゆかりのある演奏家を中心に構成された岡山県初のプロオーケストラ。1992年に創設された。

以来、世界の著名な指揮者、ソリストを迎えて開催する定期演奏会をはじめ、若い演奏家の育成事業、青少年の情操教育に資する事業、子育て支援や地元演奏団体との共演等、地域における音楽芸術振興の中心的な役割を担っている。

2013年には初の首席指揮者としてハンス・エルク・シェレンベルガーが就任。また、2022年度からは、秋山和慶がミュージックアドバイザー(現在は名誉ミュージックアドバイザー)に就任。団として一層の飛躍を図っている。

平成12年 第1回岡山芸術文化賞グランプリ受賞。 平成21年 岡山県教育関係功労者表彰。
平成15年 第4回福武文化奨励賞受賞。 平成24年 山陽新聞奨励賞受賞。
平成16年 第1回マルセン文化賞受賞。



© Lyodoh Kaneko

プレイ
ガイド

岡山シンフォニーホールチケットセンター 086-234-2010 (10:00 ~ 18:00 休館日を除く)
岡山芸術創造劇場ボックスオフィス 086-201-2200 (10:00 ~ 18:00 休館日を除く)
岡山県音楽文化協会 086-224-6066
ぎんざや 086-222-3244

チケットひあ (Pコード287-986) <https://t.pia.jp>
ローソンチケット (Lコード:63152) <https://l-tike.com/>
イープラス (ファミリーマート) <https://eplus.jp/>

岡山シンフォニーホール/岡山芸術創造劇場オンラインチケット
<https://piagetii.s2.e-get.jp/ocacticket/pt/>
※右記からもご購入いただけます。

